～子どものための
考古学～

わ～きれいな
いろんな種類があるね

久留倍遺跡（室町時代＊）・
四日市代官所跡から出土した茶道具

四日市市の埋蔵文化財

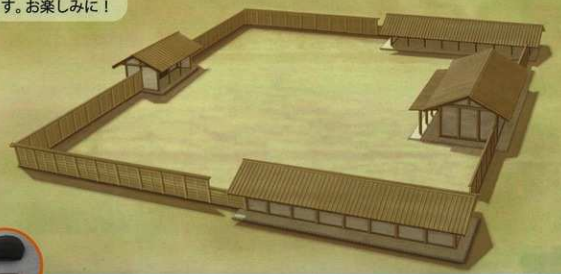
室町時代にはもう
お茶が飲まれてたんだね

Q. 建物がなくなって地面に開いた穴だけなのに どうして建物の時代がわかるのかな？

A. 土は一度掘り返すと、土の感じや色が変化します。
だから建物跡（穴）がわかるのです。
同じ場所が数百年もの間に何度も繰り返して使われたら、地面の下には
いろんな時代の建物跡やお墓の跡が埋まっており、そこから発見された土器
によっていつの時代かわかります。

飛鳥・奈良時代の久留倍官衙遺跡（約 1350 ～ 1300 年前）の様子

久留倍遺跡の中でも、特に飛鳥～平安時代（約 800 年前）の役所跡は重要な遺跡ですので、国の史跡に指定されました。
現在、工事を行っており、今年の秋には遺跡公園がオープンします。お楽しみに！



弥生時代の久留倍遺跡（約 1900 年前）

弥生時代の久留倍遺跡の様子

竪穴住居から見つかった土器

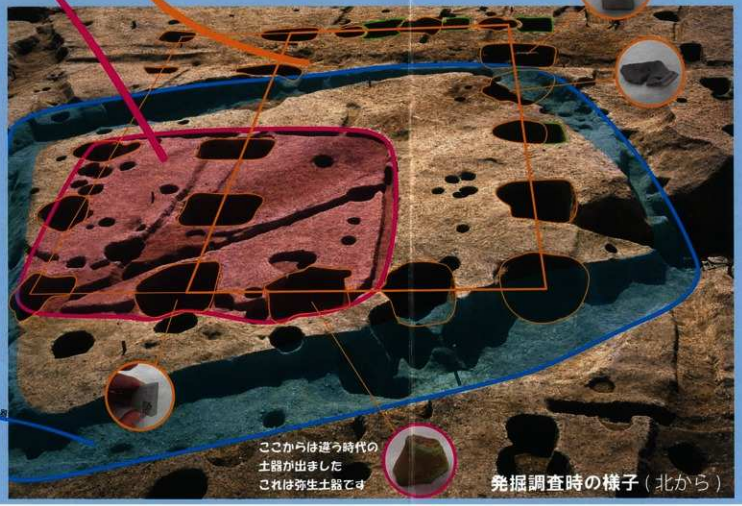
それぞれの場所から土器が出土しました。
土器の特徴から時代を知ることができます。

- 弥生時代（竪穴住居）
- 弥生時代末～古墳時代（方形周溝墓）
- 飛鳥時代（掘立柱建物）

弥生時代末～古墳時代（約 1800 年前）の方形周溝墓

（方形とは四角形、周溝とは周りの溝のことです）

方形周溝墓（お墓）イメージ図



発掘調査時の様子（北から）

Q. 左の写真の中に、建物はいくつあるでしょう？
A.「2つ」
ピンクの「竪穴住居」とオレンジの「掘立柱建物」です。
ブルーはお墓です。「お墓に家が！？」 心配はいりません。
同じ場所でも別々の時代のもので、一番古いのは竪穴住居でした。

Q. どうして竪穴住居が一番古いってわかるの？
A.「掘ったときに見える模様がカギ」
竪穴住居はたてに浅く四角い穴を掘ってつくるので、建物の跡には大きな座布団形の模様が残ります。その形の上にお墓の溝や掘立柱建物の柱の模様がありました。後から掘る溝や穴は古い模様の上から掘るので、新しい模様が一番上に見えるのです。
一番新しいのは「掘立柱建物」でした。

Q. 発掘された建物跡などの時代順は土の模様だけで決めるの？
A.「他にも『証人』がいます」
溝や穴の土に混じる土器が証人です。小片でも土器の特徴から時代がわかるのです。時々ちがった時代の土器が一緒に出てきます。でも大丈夫！「令和生まれの赤ちゃんと、昭和生まれのおばあちゃんが一緒に写る写真が撮られたのは、令和か昭和のどちらでしょう？」答えは新しい「令和」ですね。時代の決め方もこれと同じ理由なのです。

建物の柱跡のイメージ図

江戸時代の四日市代官所跡（約410～150年前）

現在の市内中心部は、享保９（1724）年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今の奈良県）領時代を除くと江戸時代を通じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、市内北町の中部西小学校の場所にありました。なお、代官所の建物は明治時代になると、三重県庁等として使われていましたが、明治９（1876）年にすべて焼失しました。

下の写真は、平成11(1999)年の発掘調査で見つかった橋の橋脚です。明治時代に描かれた絵の橋脚そのものが発見されました。

代官所の堀にかかっていた橋の橋脚（手前が代官所）

明治時代に描かれた代官所の絵（水谷百碩画）
【四日市市立博物館蔵】

そば猪口

肥前国（現在の佐賀県）で作られたそば猪口です。牡丹の花や蝶などが描かれています。

ウラ側に描かれた蝶▶

植木鉢

底に穴が空いています。江戸時代には、朝顔の栽培が大流行しました。この鉢にも、朝顔が植えられていたかもしれません。

四日市代官所跡出土

コラム　江戸時代の三滝橋の様子

三滝橋は三滝川にかかる東海道の橋です。橋の上や河原に屋台が並んでおり、人びとが夕涼みを楽しんでいます。当時の屋台では、そばや天ぷらが売られていました。

明治時代に描かれた三滝橋の絵
【四日市市立博物館蔵】

現在の三滝橋（南東から）

◆編集　四日市市教育委員会　社会教育・文化財課
◆発行　四日市市教育委員会　令和２年７月29日